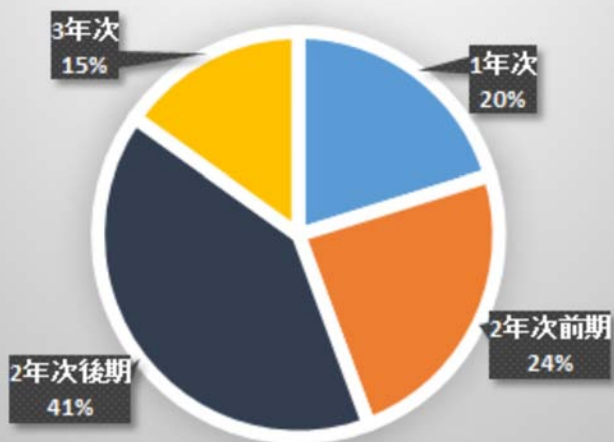


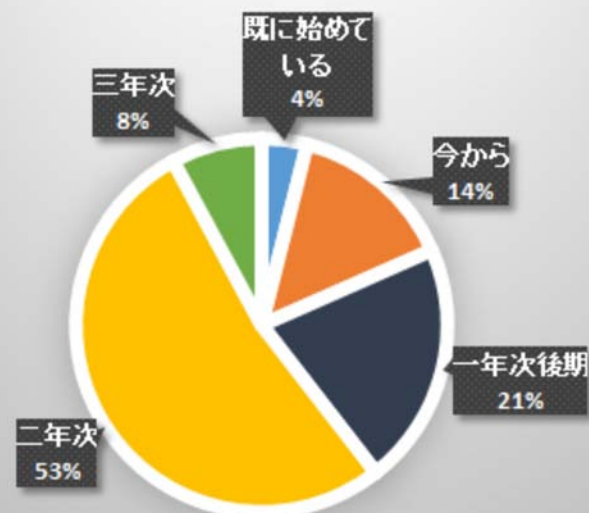
下高生の大学受験に迫る



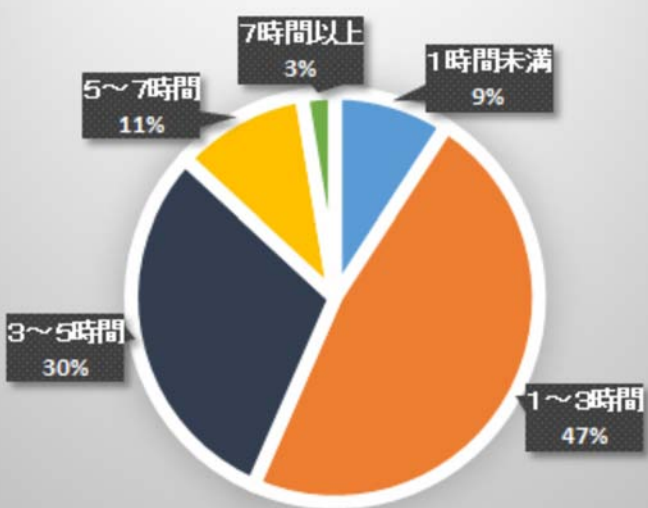
受験勉強を始めるべき
だったと思う時期(3年生)



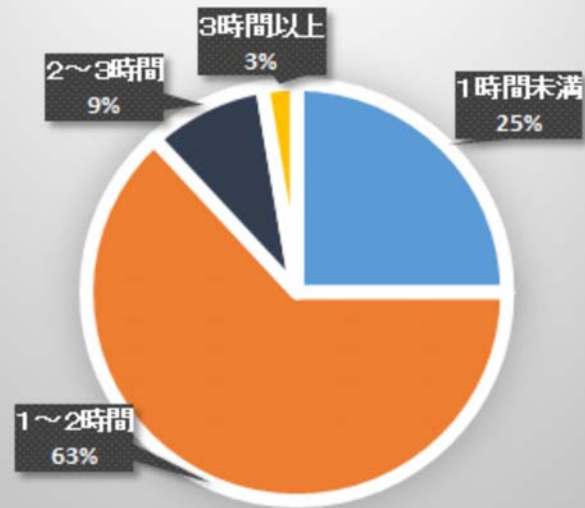
受験勉強を始めるべき
時期(1年生)



休日の学習時間(1年生)



平日の学習時間(1年生)



今回紹介する本は、「心が叫びたがっているんだ。」(豊田美加著、超平和バスターズ原作、小学館、税込748円)である。この物語は、とある高校の2年2組の話である。このクラスでは、約1カ月後に迫っていた

臨時休校となった約3ヶ月の間にみなさんは何冊の本を読んだだろうか。共感する本・参考になる本に出会えただろうか。そこで、私がぜひみなさんに読んでほしいと思った本を1冊紹介したいと思う。

趣味のすゝめ

『地域ふれあい交流会』について出し物以前に実行委員すら決まっていなかった。やる気ゼロの雰囲気の中、担任の先生が勝手に実行委員を決めてきてしまった。選ばれたのは「あまり本音を表に出さない「坂上拓実」、毎日一言も話さない「成瀬順」、夢の甲子園を目前に肘を壊しやさぐれでしまった「田崎大樹」、過去に恋愛での傷を負ってしまった「仁藤菜月」の4人である。この物語の主人公である順は幼い頃に何気なく口にした言葉が家族をバラバラにしてしまい、それ以来「言葉は人を傷つける」と思うようになり、一切言葉を口にしないようになってしまった。

皆さんもこの4人と似たところ・経験はないだろうか。特に言葉による苦い出来事は誰もが経験したことであろう。果たして、それぞれの問題を抱えた4人を中心に『地域ふれあい交流会』は開催されるのか。4人の成長が見たい人や言葉について考えたい人は「心が叫びたがっているんだ。」を読んでみてほしい。この物語は映画で上映されたことがあるため、すでに知っている人も多いだろう。しかし、本には映像だけでは伝わらない人物の感情などが書かれていることが多い。そのため、同じ物語を本として読むのもまた1つの楽しみ方ではないだろうか。(館野)

新聞部は、大学受験に関するアンケートを行った。対象は、1、3年生の男女155名だ。まず、「受験勉強を始めるべき時期」についての質問をした。その結果、1、3年生共に、「2年次」という声が多くを占めた。現在、受験勉強真っ只中の3年生と、1年生の意見が酷似しているということから、現在の1年生の意識は悪くはないと言える。また、「3年次」という声に注目すると、1年生のほうが圧倒的に少なく

回答している。一般的に、受験勉強は可能な限り早く始めたほうが良いとされているため、1年生たちには現在の思いをこれからも持ち続けて欲しい。次に、1年生に平日、休日それぞれの勉強時間について質問をした。平日は「1～2時間」、休日は「1～3時間」、「3～5時間」という声が多かった。受験勉強において、必要になってくる長時間の学習だが、いざやろうと思っても、急に始めることは難しい。そのためにも、質の高い勉強と共

に長時間学習の習慣を早いうちから身に付けておくべきだろう。大学受験の形式がどうなるのかが不透明な今、そのような行動1つ1つが受験の成功へと繋がると言える。受験勉強を始める時期や日々の学習時間は大学入試の成功のための大きな要因である。部活動や恋愛など、高校生活ならではのことを謳歌しつつも、自身の受験を成功させるために必要なことを考えてみてはどうだろうか。(長野)